

大阪狭山市文化財報告書38

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書21



平成23年（2011年）3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書21



平成23年(2011年)3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪府の南部に位置する大阪狭山市は、市域のほぼ中央に7世紀に築造されたダム式のため池「狭山池」があります。狭山池は、今もなお、南河内地域の主要なため池として田畠の水を湛え、春には「狭山池まつり」が市民主体となって開催されるなど、市民の憩いの場としての役目を担っています。また、市域内には西高野街道、中高野街道など高野山に向かう主要な街道が通り、近世には狭山藩北条氏が陣屋を築きました。こうした環境のもとで、これまで多くの歴史遺産を受け継ぎ人々の生活の場を育んできたことを、市内の遺跡は物語っています。

大阪狭山市は、大阪市内への通勤圏内に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この開発が文化財にもたらした影響は大きく、特に、地下に眠る埋蔵文化財は、開発と直接結び付くため、その保護について迅速な対応が求められています。

本書は、平成22年度に国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。本書が、文化財の保護と理解のための一助となれば幸いです。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。このような方々のご協力により、大阪狭山市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後もより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成23年(2011年)3月

大阪狭山市教育委員会

教育長 宮崎順介

例　　言

1. 本報告書は、平成 22 年度国庫補助事業として大阪狭山市が実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本書に収録した調査は以下のとおりである。
 1. 陶邑窯跡群 陶器山 42 号窯 (MT42) - 01 区、陶器山 42 号窯 (MT42) - 02 区
 2. 試掘調査 090329 区 (庄司庵遺跡)、101117 区 (池尻遺跡)
3. 発掘調査は、大阪狭山市教育委員会社会教育・スポーツ振興グループ 平野淳、土江文子 (嘱託)、芝地夏美 (嘱託)、藤田徹也 (当時嘱託) が担当し、植田隆司 (大阪府立狭山池博物館・大阪狭山市立郷土資料館) の助言を得た。
4. 発掘調査及び内業整理については、下記の諸氏の参加を得た。
若宮美佐 松浦史甫 川岸栄美 岡本順子
5. 本書の執筆は平野、芝地、土江が分担し、土江が編集した。

目　　次

(頁)

序 文	大阪狭山市教育委員会教育長 宮崎順介
例 言	
はじめに	1 (平野・芝地)
1. 陶邑窯跡群 陶器山 42 号窯 (MT42) - 01 区立会調査	5 (土江)
2. 陶邑窯跡群 陶器山 42 号窯 (MT42) - 02 区発掘調査	11 (土江)
3. 試掘調査 090329 区 (庄司庵遺跡)	13 (土江)
4. 試掘調査 101117 区 (池尻遺跡)	15 (土江)
平成 22 年 (1 ~ 12 月) 調査一覧表	
写真図版	
報告書抄録	

はじめに

大阪狭山市の現況

市域の地形環境は、第1図（3頁）にあるように、東西の羽曳野丘陵・泉北丘陵に挟まれ、市域のほぼ中央に西除川（旧天野川）の形成した沖積低地がある。川を堰き止める形で狭山池が位置し、その低地部分の東西に低位段丘・中位段丘がそれぞれ形成されている。

大阪狭山市は、1960年代後半の市域南部でのニュータウン開発を機に、人口が急増した。1980年代以降は小規模な宅地開発が続き、人口は約58,000人でほぼ同じ規模で推移している。

市内における埋蔵文化財の調査は、1980年代までに建築された個人住宅の建替えに伴う調査が主流である。また、埋蔵文化財包蔵地外での宅地開発も多く、近年は遺跡の新規発見も続いている。

歴史的環境

旧石器時代の資料としては、東野地区・池之原地区・ひとつ池でナイフ形石器が採集されている。

縄文時代の資料としては、寺ヶ池遺跡・東村遺跡・大鳥池遺跡・へど池・狭山池・ひとつ池・上明池・池之原地区で採集された石鏃やスクレイパーなどがある。

弥生時代には、市域南部の茱萸木遺跡において高地性集落が確認されたと記録に残るが、その詳細については不明である。

古墳時代前期には、旧天野川流域の沖積低地に立地する池尻遺跡で、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性のある遺構とともに庄内式の壺・壺と布留式の土器が出土しており、古墳時代前期までは旧天野川流域に集落が成立していたことを示している。

古墳時代中期以降、泉北丘陵を中心に須恵器生産が開始し、陶邑窯跡群が形成された。6世紀中頃までの市域内における窯の造営は、陶器山丘陵周辺に限定されるようである。7世紀に入ると須恵器窯の数は減少するが、狭山池主谷周辺で、東池尻1号窯・狭山池4号窯・ひとつ池西窯などが確認されている。

7世紀前葉、旧天野川と三津屋川の流れをせき止め、ダム式のため池である狭山池が造られた。この狭山池の北堤の直下から検出された下層東植の年輪年代法による調査の結果、狭山池の築造年代は、616年以降の非常に限定された時間幅の中に求められることになった。他にも7世紀後葉から8世紀初頭には旧天野川右岸の中位段丘上に東野庵寺が建立された。

狭山池に関連して、天平3（731）年に僧行基が狭山池院と尼院を建てたと『行基年譜』に記されている。これに関連する建物跡は、現在までに確認されていない。また、天平宝字6（762）年の狭山池の大規模な改修が『続日本紀』に記され、発掘調査で、狭山池北堤の幅を築造当初と比較して2倍に拡大する大規模な盛土工事を実施したことが判明した。

平安時代の弘仁10（819）年の記録には、僧勤操が「狭山池所」にいたと記されている。狭山池に関わる役所を狭山池の近傍に設置していたと推測されるが、狭山池院と同じくその詳細については不明である。

鎌倉時代の初期、東大寺を復興した僧重源によって狹山池の改修が行われた。狹山池の発掘調査で「重源狹山池改修碑」が出土し、この碑文から記録「南無阿弥陀仏作善集」にみえる建仁2(1202)年の改修が裏づけられた。

13世紀の遺跡としては、水田跡や屋敷地などの遺構が検出されている池尻遺跡がある。南北朝の内乱期、狹山池の北西に池尻城が築かれ、13世紀から15世紀の建物跡が確認されている。

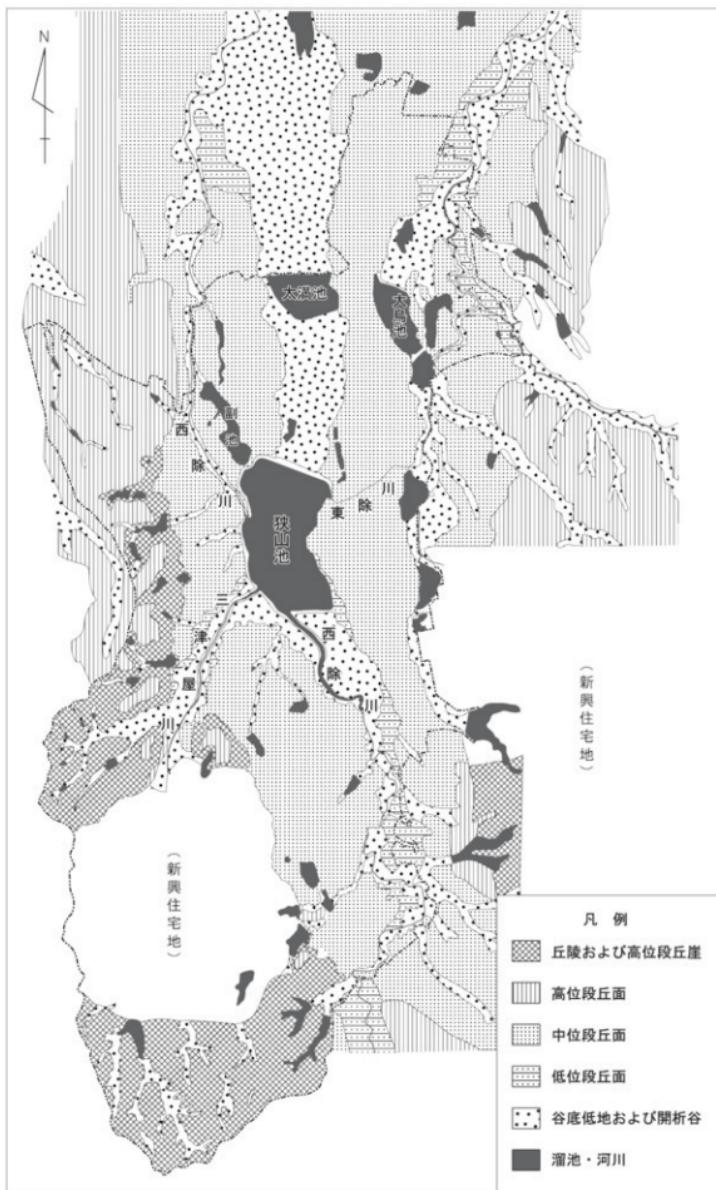
慶長13(1608)年、豊臣秀頼の後見役で摂河泉国奉行の片桐且元によって、狹山池で大規模な「慶長の改修」が行われた。西樋・中樋・東樋を新たに造り、西除の造り替え、東除の新設、北堤の嵩上げを行ったことが発掘調査により確認された。

元和2(1616)年、小田原北条氏の子孫の北条氏信(狹山藩2代藩主)が狹山池の北東で陣屋(上屋敷)の構築を始め、明治維新まで12代続く狹山藩が開かれた。3代氏宗の寛永14(1637)年、上屋敷の北半分が完成した。寛永20(1643)年、上屋敷の南半分と総構・土手などが完成した。また、陣屋下屋敷は、狹山遊園跡地を中心とした地域に、延宝5(1677)年に4代氏宗が構築を始め、5代藩主氏朝の宝永6(1709)年に完成した。上屋敷における発掘調査では、天明2(1782)年の大火災で形成された焼土層や灰層を境にして、大火以前の下層遺構面と、大火以後から幕末頃までの上層遺構面が確認されている。

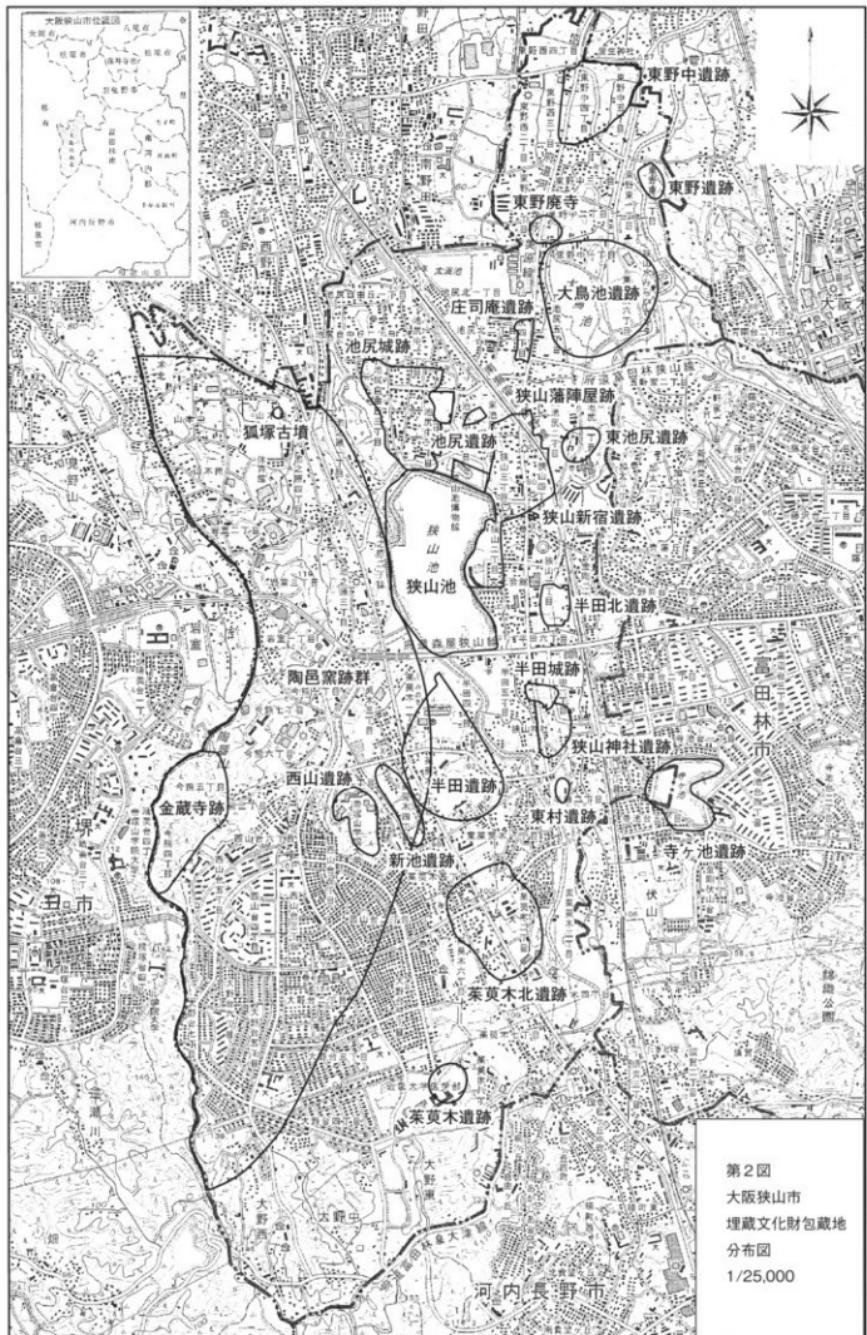
新規発見遺跡としては、市域北端の東野中に古墳時代以降の集落跡と考えられる「東野中遺跡」を指定した。東池尻4丁目の小字地名「庄司庵」の残る地域を中心に、古墳時代や中世の遺物を発見し「庄司庵遺跡」として指定した。また、半田6丁目・狹山1丁目の中高野街道に沿って平安時代の遺物散布地として「半田北遺跡」を、石器・須恵器等の遺物と遺構の発見に伴い旧来の池尻遺跡に加えて池尻中2丁目に「池尻遺跡」の追加指定を行った。

参考文献

- | | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 上野正和 | 1992年『狹山の考古学研究と私』『さやま誌 大阪狹山市文化財紀要』創刊号 |
| 大阪狹山市教育委員会 | 1988年『山本1号窯発掘調査概要報告書』
1991年『太満池南窯・北窯発掘調査報告書』
1992年『池尻新池南窯発掘調査報告書－陶邑窯跡群の調査』
1992年『大阪狹山市史叢書 絵図に描かれた狹山池』
1993年『ひつ池西窯－陶邑窯跡群の調査－』
2002年『平成14年度狹山藩陣屋跡発掘調査報告書Ⅰ』
2004年『狹山池5号窯・狹山藩陣屋跡』 |
| 大阪府立狹山池博物館 | 2010年『大阪府立狹山池博物館常設展示案内』大阪府立狹山池博物館 |
| 勝部明生 | 1988年『狹山の石器』『大阪狹山市史要』 |
| 日下雅義 | 1980年『歴史時代の地形環境』古今書院 |
| 大阪府教育委員会 | 1987年『池尻城跡発掘調査概要』 |
| 狹山池調査事務所 | 1998年『狹山池 埋蔵文化財編』 |



第1図 大阪狭山市域の地形分類



第2図
大阪狭山市
埋蔵文化財包蔵地
分布図
1/25,000

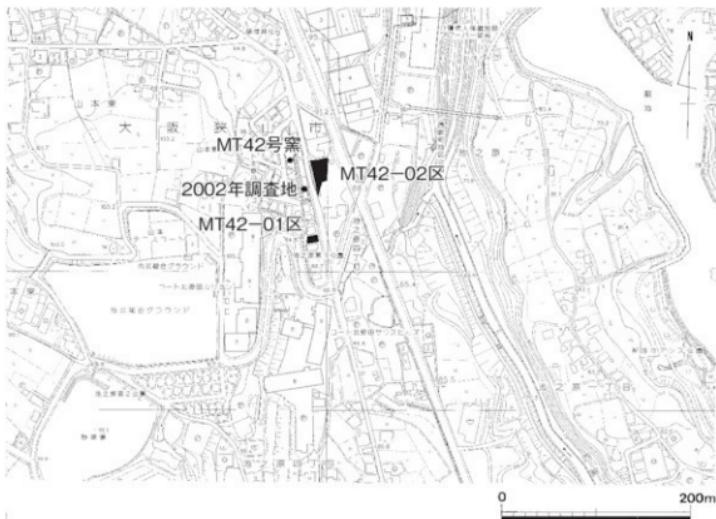
1. 陶邑窯跡群 陶器山 42号窯 (MT42) - 01 区

大阪狭山市内には、市域西部の丘陵上から中位段丘斜面にかけて分布する陶器山 (MT) 地区に属する窯跡が約 60 基と、狭山池周辺および旧天野川水系の段丘斜面に分布する 30 基の窯跡が認められる。

MT42 号窯は、高位段丘の東斜面に灰原が確認されているが、窯体の位置はわからず詳細は不明である。しかしながら本書に報告する 2か所の調査地の北側で、2002 年に実施された立会調査では、「灰原が現代の擾乱を受けて二次堆積した灰層」が確認され、この灰層から TK47 ~ MT15 型式の須恵器が出土している（大阪狭山市教委 2003）。

調査概要

調査地は、MT42 号窯の推定地から南へ約 80m の個人住宅建築地である。建物基礎工事の際に立会調査を行った。掘削開始直後から須恵器が出土し、地表下約 20 cm で焼土混じりの赤褐色土が 5 cm 未満の厚さで薄く堆積する状況が土層断面で確認された。須恵器が出土し、焼土が認められることなどから、窯体に関連する層かと慎重に掘削を見守っていたところ、その下の灰色系粘土層から近世所産と思われる土師器片が出土した。2002 年の調査事例でもあったように、焼土を含むこの赤褐色土層は、古墳時代の原位置を留めるものではなく、近世以降に二次的に堆積したものであるが、出土した須恵器は MT42 号窯の窯跡資料と認識できる。その広がりは、申請地中央南寄りのおよそ東西 3.0m、南北 1.5m の範囲に見られ、東へ緩く傾斜しながら地表下 20 ~ 30 cmあたりで観察された。



第3図 陶邑窯跡群調査区位置図 (1/5,000)

遺物

出土した遺物は須恵器 82 点、土師器 1 点でコンテナ 1 箱分である。以下特徴を述べる（遺物観察表参照）。

1、2 は須恵器蓋で両者とも体部には鈍い稜を持つ。1 は口径 13.8 cm に復元でき、口縁端部内面には鈍い段を有する。2 は口縁部を欠損する。

3、4、5、6 は須恵器杯身である。3 の口縁は上方に立ち上がり、端部内面に段を持つ。受部は欠損する。4 は底部片で、口縁部を欠く。5 は口縁端部を欠損するが、受部は水平にのび、受部径は 16.0 cm に復元できる。6 は他のものと型式が異なり、立ち上がりは比較的低く内傾しながら上方へのび、先端は丸い。受部はほぼ水平に仕上げる。7 は杯蓋である。体部から口縁部の外側に、内面を上にした別の杯片が融着していて特徴が見づらいが、口縁端部内面には非常に鈍いものの、段を有する。

8 は器台の台部である。一条の波状文を施し、その下位には凹線を巡らす。カキ目も観察できる。

9、10 は壺の口頭部である。9 は頭部を上方にのばし、口縁部を外反させ、端部を玉縁状に肥厚させる。頭部には刻み目文が見られる。10 は口頭部を外傾させ、口縁端部は外側を肥厚させて下位に突帶を巡らす。頭部には一条の波状文を施し、その下位に凹線を巡らす。波状文の下にはカキ目も見られる。11 は壺の肩部で、外面にはカキ目を施し、タタキ痕を消している。内面には同心円文当て具痕が残る。12 ~ 17 は壺の体部片であるが断面実測を行った。いずれも壺の外面にはタタキ痕、内面には同心円の当て具痕が残るが、12、13、14、16 は内面の同心円文をナデにより半スリ消し状態にする。

18 は壺の頭部かと思われ、二条の凹線の間に波状文を施すものである。

19 は提瓶の体部片である。内面には指頭痕のついた円形の粘土板の接合痕が観察できる。外面には反時計まわりのカキ目が施される。

20 は土師器の焰烙である。把手に円形の穿孔がなされる。江戸時代中期の所産であろう。

以上、須恵器の中には、6 のように型式が相対的に新しい要素を持つものが含まれるが、概ね TK47 型式、MT15 型式の特徴を持つものである。

参考文献

和泉丘陵内遺跡調査会 1992 年『陶邑窯址群—谷山池地区の調査—』

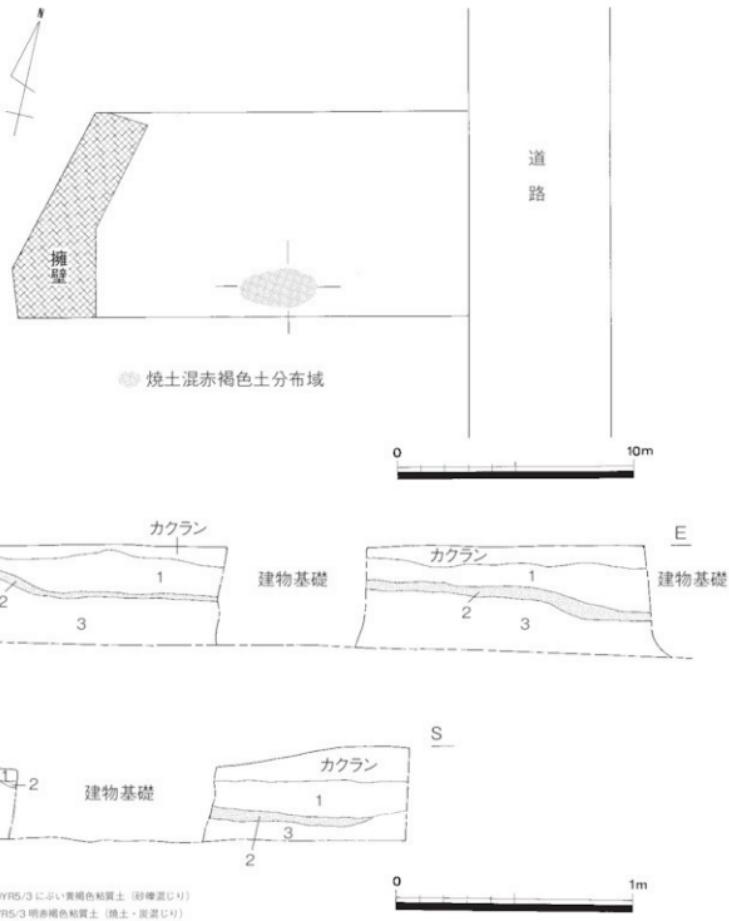
植田隆司 1999 年『陶邑窯跡群東端の窯跡分布』『狭山池 論考編』狭山池調査事務所

大阪狭山市教育委員会 2003 年『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 13』

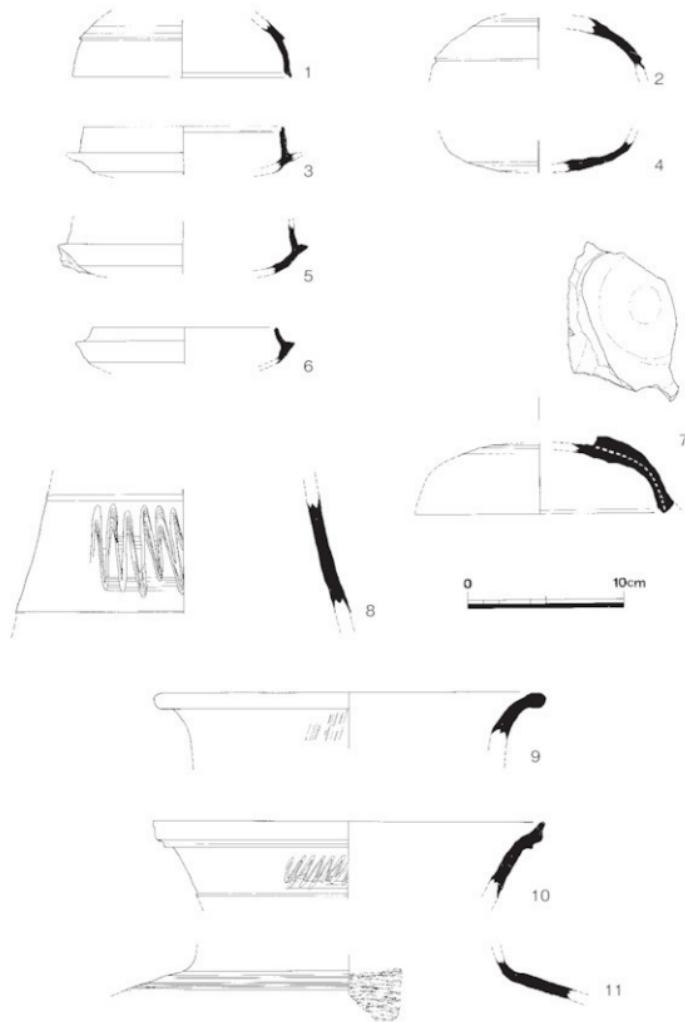
大阪府立近つ飛鳥博物館 2006 年『年代のものさし—陶邑の須恵器—』

畠大阪府文化財調査研究センター 1997 年『宮の前遺跡・螢池東遺跡・麻田藩陣屋跡・螢池遺跡・

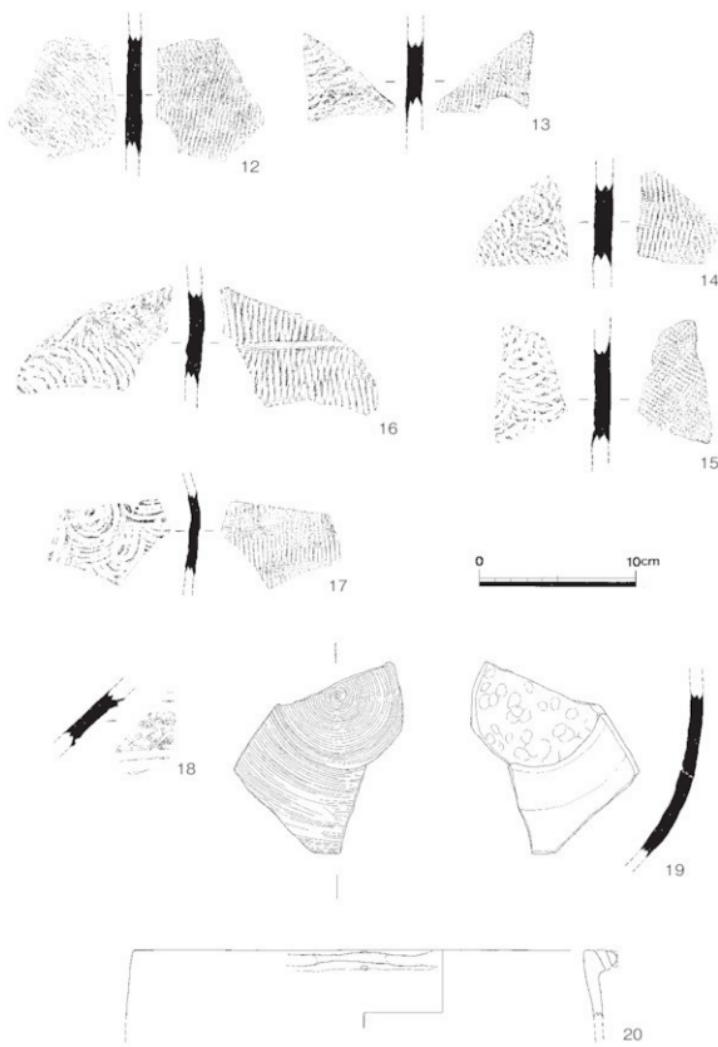
螢池南地区・螢池西遺跡 1993 ~ 1996 年度発掘調査報告書』



第4図 MT42-01 調査区平面図 (1/200)・土層断面図 (1/20)



第5図 MT42-01区出土遺物実測図 (1/3) ①



第6図 MT42-01区出土遺物実測図 (1/3) ②

MT42-01区遺物觀察表

器種	法量(cm)	成形・調整	備考
1. 須恵器 杯蓋	口径: 13.8 残存高: 3.7	マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ	胎土: 密、1 mm以下砂粒若干含む。焼成: 良好 口縁外 面に若干自然釉かぶり、重ね焼きの痕跡あり。色調: 暗灰色 ロクロ回転: 右方向 残存: 1/10以下、反転復 元
2. 須恵器 杯蓋	残存高: 3.3	マキアゲ、ミズビキ成形 天井部外面回転ヘラ削り、他は回 転ナデ	胎土: 密、2 mm以下長石・チャート若干含む。焼成: 良 好 色調: 外面暗灰色、内面灰色、天井部外面釉かぶり 自然釉 残存: 約1/6、反転復元
3. 須恵器 杯身	口径: 12.8 残存高: 3.0 立ち上がり 高: 1.8	マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ	胎土: 密、チャート、3 mm以下小石含む。焼成: 良好、 受部僅かに灰かぶり。 色調: 青灰色 残存: 1/10以下、 反転復元
4. 須恵器 杯身	残存高: 2.1	マキアゲ、ミズビキ成形 底部外面回転ヘラ削り、他は回 転ナデ	胎土: 密、2 mm以下長石若干含む。焼成: 良好。 外面灰 かぶり 色調: 緑青灰色 ロクロ回転: 右方向 残存: 1/10以下、反転復元
5. 須恵器 杯身	受部径: 16.0 残存高: 3.3 残存立ち上 がり高: 1.4	マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ	胎土: 密、チャート、1 ~ 2 mm長石含む。焼成: 良好、 重ね焼き破片が付着。 色調: 暗青灰色 残存: 1/10以下、 反転復元
6. 須恵器 杯身	口径: 10.8 受部径: 14.0 残存高: 2.3 立ち上がり 高: 0.9	マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ	胎土: 密、チャート含む。焼成: 良好 色調: 青灰色 残存: 1/10以下、反転復元
7. 須恵器 杯蓋	口径: 15.8 残存高: 4.5	マキアゲ、ミズビキ成形 天井部外面回転ヘラ削り、 他は回転ナデ	胎土: 密、2 mm以下砂粒若干含む。焼成: 良好、重ね焼 きの杯が融着。灰かぶり 色調: 暗青灰色 残存: 約1/4、 反転復元 天井部ヘラ記号あり。
8. 須恵器 器台	残存高: 7.8	マキアゲ、ミズビキ成形 外面: カキ目地、 波状文 内面: 回転ナデ	胎土: 密、3 mm以下長石含む。焼成: 良好 色調: 内・ 外面部青灰色、断面灰褐色 残存: 1/10以下、反転復元
9. 須恵器 壺	口径: 23.8 残存高: 3.5	マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ 外部外面に刻み目文	胎土: 密、2 mm以下長石・チャート若干含む。焼成: 良好、 一部自然釉付着 色調: 青灰色 残存: 1/10以下、反転 復元
10. 須恵器 壺	口径: 24.8 残存高: 4.9	マキアゲ、ミズビキ成形 回転ナデ 頭部外面に波状文	胎土: 密、2 mm以下長石若干含む。焼成: 良好。 口縁部 外面一部自然釉付着、内面灰かぶり及び自然釉付着。 色調: 青灰色 残存: 1/10以下、反転復元
11. 須恵器 壺	残存高: 2.9	マキアゲ、ミズビキ成形 肩部外面: タタキの後、カキ目 体部内面: 同心円あて具痕、他 は回転ナデ。	胎土: 密、3 mm以下長石、1 mm以下チャート若干含む。焼成: 良好 色調: 外面淡灰色、内面・断面灰色 残存: 1/10 以下、反転復元。
12. 須恵器 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキ 内面: 同心円あ て具痕、半スリ消し。	胎土: 密、チャート若干含む。焼成: 良好 色調: 青灰 色 残存: 1/10以下
13. 須恵器 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキ 内面: 同心円あ て具痕、半スリ消し。	胎土: 密、0.2 mm以下長石に含む。焼成: 良好 色調: 暗青灰色、灰かぶり 残存: 1/10以下
14. 須恵器 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキ 内面: 同心円あ て具痕、半スリ消し。	胎土: 密、0.2 mm以下長石・チャート若干含む。焼成: 良 好 色調: 内・外面部暗灰色、断面青灰色 残存: 1/10 以下
15. 須恵器 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキ 内面: 同心円あ て具痕	胎土: 密、0.2 mm以下長石若干含む。焼成: 良好 色調: 暗青灰色 残存: 1/10以下
16. 須恵器 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキの後、カキ目 内面: 同心円あて具痕、半スリ 消し。	胎土: 密、0.2 mm以下長石含む。焼成: 良好 色調: 外面 青灰色、断面褐灰色、内面明灰色 残存: 1/10以下
17. 須恵器 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキの後、カキ目 内面: 同心円あて具痕	胎土: 密、チャート若干含む。焼成: 良好 色調: 外面 内面青灰色、断面褐灰色 残存: 1/10以下
18. 須恵器 壺	残存高: 3.9	マキアゲ、ミズビキ成形 頭部外面に波状文	胎土: 密、4 mmの小石、2 mm以下長石を若干含む。焼成: 良好 色調: 明青灰色 残存: 1/10以下
19. 須恵器 提瓶	残存高: 12.1	マキアゲ、ミズビキ成形 粘土板: 窓を穿いた接合痕 外面: 半割けわたりのカキ目 内面: 回転ナデ	胎土: 密、長石含む。焼成: 良好 色調: 外面灰色、内 面灰青色 残存: 約1/8
20. 土師器 烧烙	口径: 28.8 残存高: 4.4	摩滅するが、口縁近くに横方向 ナデが僅かに見える。	胎土: 密、焼成: 良好 色調: 外面淡褐色、断面: 棕 色 残存: 1/10以下、反転復元

2. 陶邑窯跡群 陶器山42号窯 (MT 42)-02区

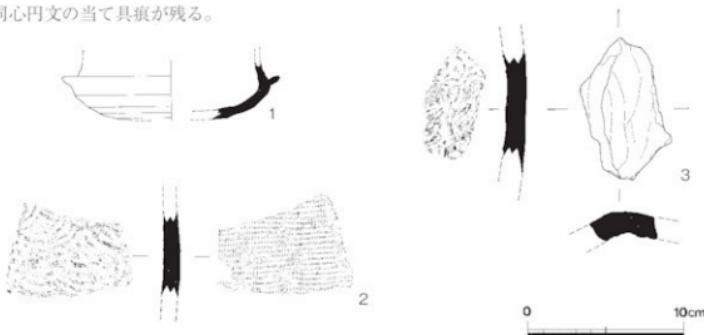
調査概要

介護施設建設に伴う発掘調査である。申請地はMT42号窯推定地の東約30mの地である。敷地は道路と同一面の西側が高く、斜面下の東側は一段低くなっている。斜面に対して直交方向の東西トレントと斜面据に南北トレントを設定し、掘削を行った。

東西トレントの西部は約1.4mの盛土により分厚く整地されている。盛土の下には褐色土が堆積し、黄橙色の地山が確認できる部分もある。斜面据あたりは40cm程の盛土の下に、同様に褐色土が堆積する。南北トレントの北寄りでも地山が見られたが、包含層や遺構は認められず遺物の出土もなかった。にもかかわらず、調査前に行った表面採集では16点の須恵器片が採取された。おそらくこれはMT42号窯周辺の土が整地の際に運ばれ、その中に混入していたものではないかと思われる。

遺物

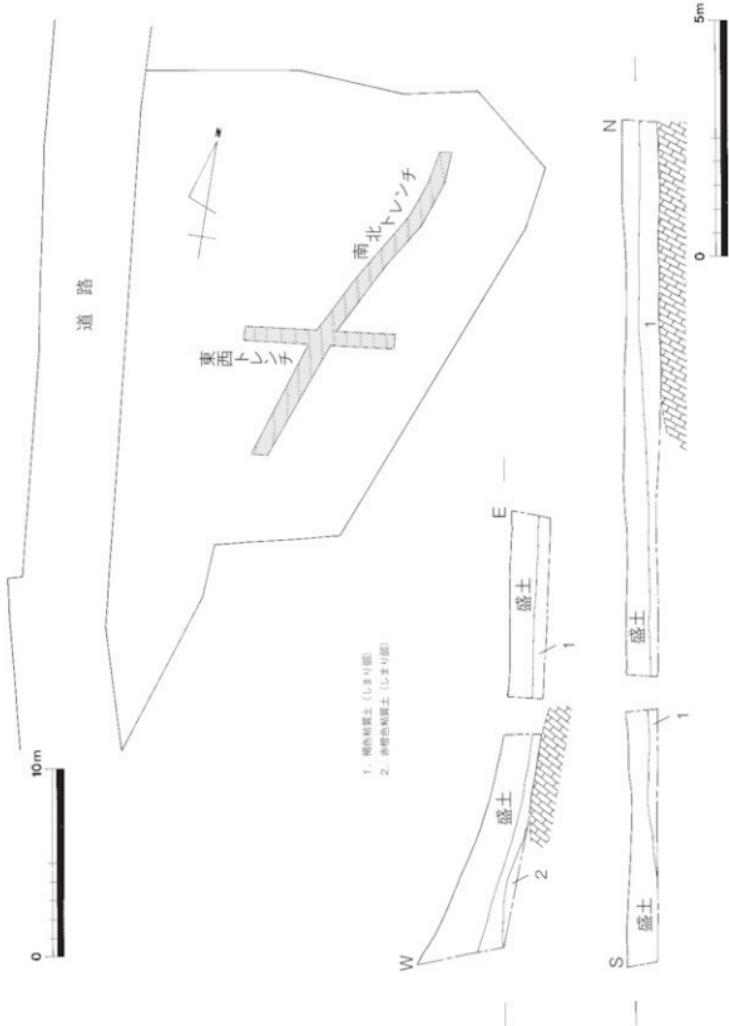
1は須恵器の杯身である。口縁端部は欠損するが、立ち上がりは内傾してのびるようである。受部は外上方にのび、端部はやや丸い。体部から底部への外面調整は、底から3/4の範囲に回転ヘラ削りを施す。2は須恵器裏片で、内面の同心円文は半スリ消し状態である。3は須恵器は用途不明のものである。長い方の断面を縦断面として実測すると、ほぼ水平に近い断面形となり、横断面は鈍角に屈曲する形となる。外面は縦方向のナデで平滑に仕上げられ、内面には同心円文の当て具痕が残る。



第7図 MT42-02区出土遺物実測図 (1/3)

MT42-02区遺物観察表

器種	法量(cm)	成形・調整	備考
1. 須恵器 杯身	受部径: 14.0 残存高: 3.75 残存立ち上がり高: 1.1	マキアゲ、ミズビキ成形 体部・底部外 面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	胎土: 密、チャート含む 焼成: 良好 自然釉付着 色調: 外面 青灰色、断面 灰青色 ロクロ右回 転 残存1/8 反転復元
2. 壺		マキアゲ、ミズビキ成形 外面: タタキ 痕 内面: 同心円當て具痕を半スリ消し	胎七密、長石チャート少し含む 焼成: 良好 色調 外面 青灰色、内面 灰青色 残存1/10以下
3. 器種不明	長さ: 9.0 幅: 4.7 厚さ: 1.4	外面: ケズリ後ナデ 内面: 同心円當て 具痕	胎土: 密、5ミリ以下石粒含む 焼成: 良好 色調: 青灰色 残存1/10以下



第8図 MT42-02区トレンチ位置図(1/250)・土層断面図(1/100)

3. 試掘調査 090329区（庄司庵遺跡）

調査概要

高齢者グループホームの建設工事に伴い試掘調査を実施した。申請地は太満池と大鳥池の間から、府道河内長野美原線沿いを少し南へ行った地である。地形的には中位段丘上に立地し、敷地のすぐ西側は段丘崖となっている。狭山池東岸から南北に延びるこの段丘崖を利用した須恵器窯が、太満池から狭山池にかけて14基ほど点在している。また、近辺では中世遺物の出土も知られ、小字に残る地名から中世興福寺の莊園「狭山莊」の現地管理者である「庄司」ゆかりの地と考えられる。建物建設予定範囲を中心に4か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。

第1トレンチ

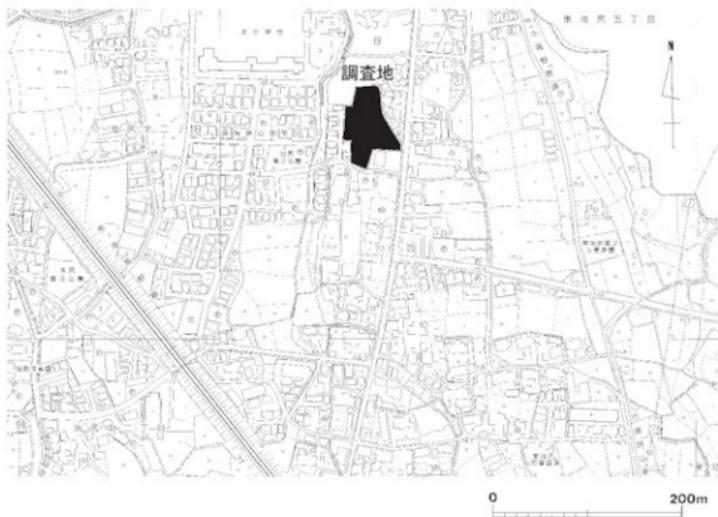
申請地の最も東側で、最も高位に位置する。層序は、耕土20cm、床土を含む整地土35cmで、その直下が地山となる。包含層や遺構、遺物は確認されなかった。

第2トレンチ

第1トレンチの田地面より一段下がった田地面に設定した。層序は第1トレンチと同様で包含層等は認められなかったが、整地土が若干厚く、西側では地山の落ち込みが確認された。遺物は整地土層中より須恵器、土師器、瓦器が出土し、また地山の落ち込む埋土にも多数の遺物が見られた。

第3トレンチ

北東側に設定した。層序は他のトレンチと同様で土師器片などが若干出土したが、遺構の検



第9図 090329 調査区位置図 (1/5,000)

出はなかった。

第4トレンチ

北西側で最も低位に位置する。第2トレンチで確認した西側へ落ち込む状況に対応し、地表面から地山までの深さは約1.8mを測る。層序は、第1層耕土、第2層整地土、第3層は灰色系シルトと褐色系シルトの混合土で、この層が地山落ち込みの埋土と思われる。第4層は、灰色系粘土からシルトの旧耕土、第5層は第4層の床土、第6層は褐色系と灰色系の砂質の混合土で、しまりが弱い。第7層は灰色系の粘質土である。遺物は第3層と第6、7層からも出土した。

小結

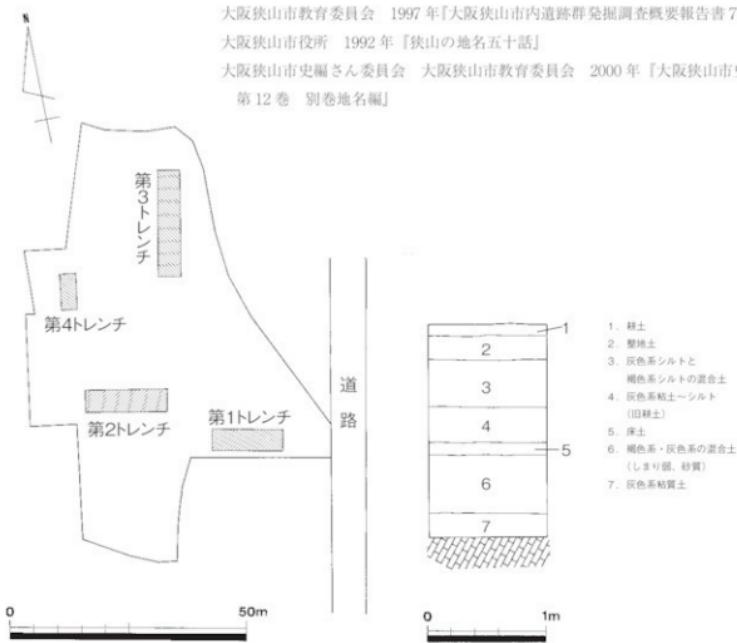
いざれのトレンチにおいても地山面で検出されなかつたが、第2トレンチと第4トレンチでは、須恵器と中世遺物が認められた。今回の調査成果と以前の調査成果、さらに近辺に残る小字の地名などからも、周辺地域は古墳時代および中世の埋蔵文化財包蔵地と認識することが相当と考えられ、古墳・中世の時代の散布地として指定を行つた（第14図参照）。

参考文献

大阪狭山市教育委員会 1997年『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書7』

大阪狭山市役所 1992年『狭山の地名五十話』

大阪狭山市史編さん委員会 大阪狭山市教育委員会 2000年『大阪狭山市史 第12巻 別巻地名編』



第10図 090329 区トレンチ位置図 (1/1,000)・第4トレンチ土層柱状図 (1/40)

4. 試掘調査 101117区（池尻遺跡）

調査概要

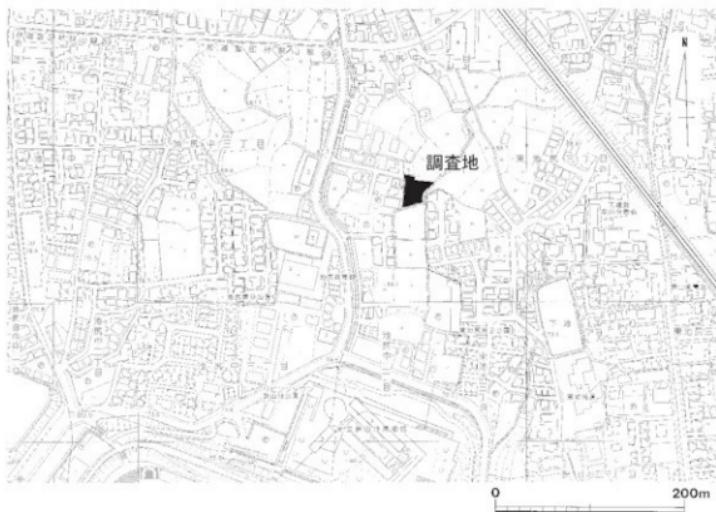
試掘調査

宅地開発工事に伴い試掘調査を実施した。開発地内の道路予定部分に東西方向にトレンチを設定し、掘削を行った。現況は田地であり、約10cmの耕土床土の下は、東側ではすぐに地山となり、西側では20cm未満の包含層を挟んで地山となる。地山面で精査したところ、トレンチ西端で遺構を確認し、さらにその広がりを把握するためトレンチを南北方向へ拡張した結果、幅1.3m以上、長さ4.5m以上、深さ約25cmの南北方向へのびる溝状遺構であると推測され、埋土の状況や出土した遺物から、その時期は中世所産であろうと考えられた。また、地山直上の包含層からは、須恵器、土師器、石器等の遺物が10点余り出土した。

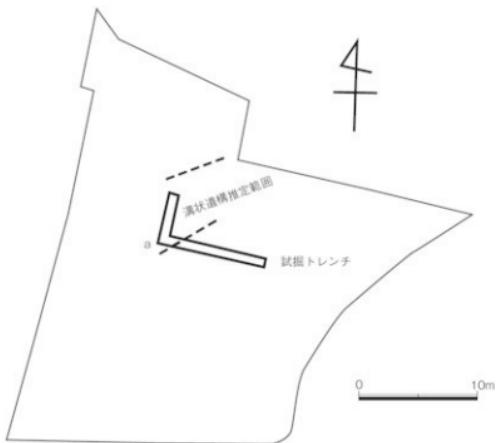
立会調査

溝状遺構以外には遺構が認められず、出土遺物量も僅かであることを考慮しても、掘削深度の深い道路予定部分については、調査が必要であると判断した。そこで開発計画者と協議を行い、埋設管設置については遺構の想定される範囲を避け、掘削幅を最小限度に留めることで合意し、立会調査とするに至った。

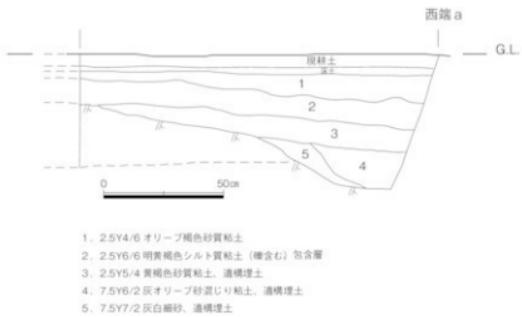
調査は埋設管設置時に実施され、遺構調査の確認と掘削土層断面の観察に重点を置いた。その結果、試掘調査で確認した溝状遺構に続くと思われる、南西から北東に軸を持つ遺構が認められた。遺構の深さは約0.6m、幅約5mと推定し、開発地の北西側に広がるとみられる旧河道をベースにした溝状遺構と捉えられた。



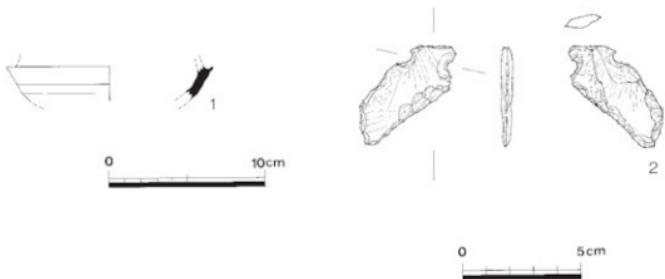
第11図 101117調査区位置図 (1/5,000)



トレンチ南壁断面図（西端部分）



第12図 101117区トレンチ位置図(1/400)・土層断面図(1/20)



第13図 101117区出土遺物実測図

101117区遺物観察表

器種	法量(cm)	成形・調整	備考
1. 須恵器 杯身	受部径:13.2 残存高:2.3	マキアゲ、ミズビキ成形 体部外面は回転ハラ削りと、回転ナデ、内面回転ナデ。	胎土:密、長石含む 焼成:良好 色調:淡青灰色 残存1/10以下 反転復元
2. 石器 石匙	長さ:5.5 幅:2.2 厚さ:0.6	ツマミ状の突起部を有し、側縁には剥離調整。	

遺物

1は須恵器杯身である。立ち上がり部を欠くものの受部が残り、その径は13.2cmを測る。受部は上方を向く。2は縄文時代もしくは弥生時代の石匙と思われる石器である。側縁の上部に抉りを入れ、つまみ状の突起をつくりだす縦型に近い形態である。側縁には剥離調整が見られ、刃部としているようである。なお、市内でも寺ヶ池、池之原、東村から石匙が採集されている。

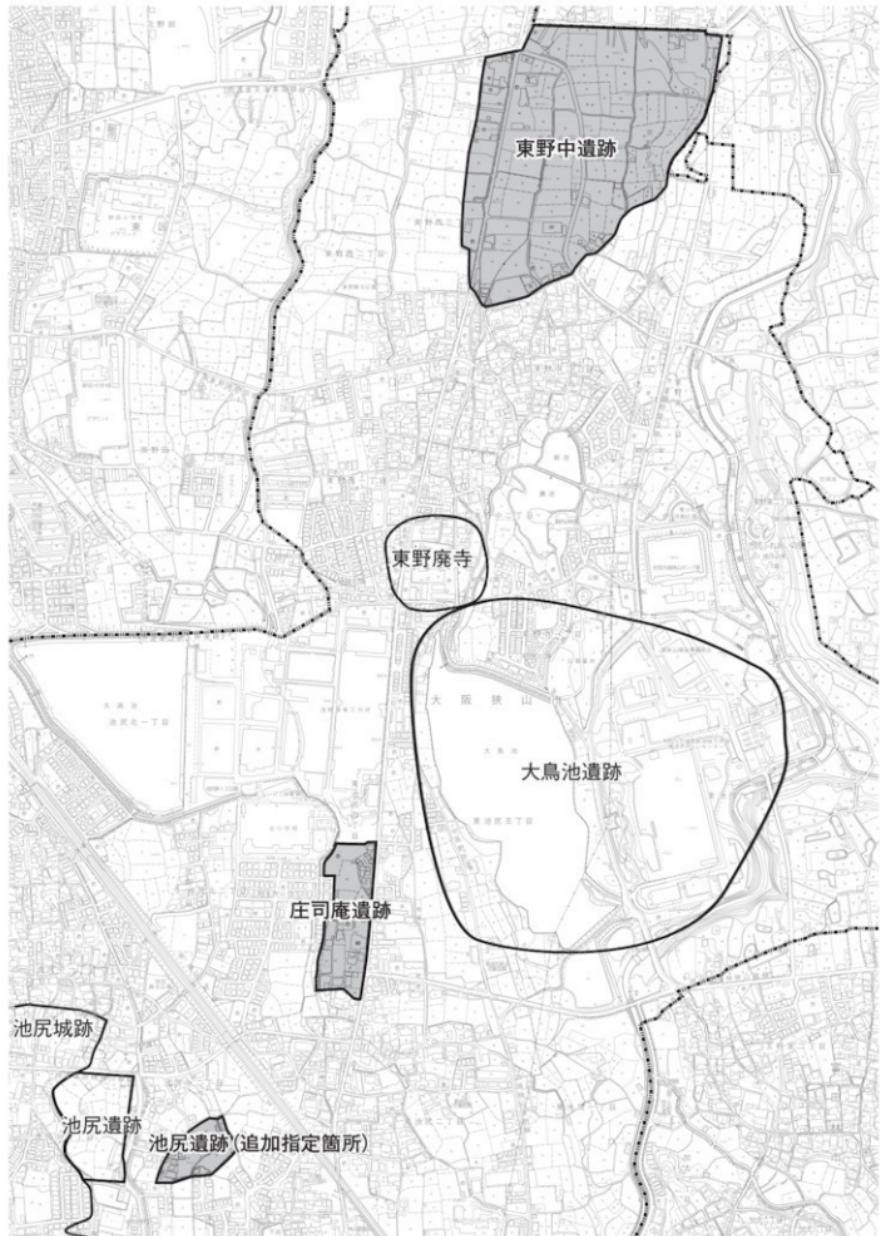
小結

試掘調査及び立会調査で確認された遺構等から、当該地周辺を周知の池尻遺跡に追加することが適当であると考えられた。追加範囲を確定するため、周辺で踏査を試みた結果、土師器、須恵器の細片が約10点採取された。今次開発地を含め、遺物が表採された地域を、これまでの池尻遺跡に加えて周知する範囲とした（第14図参照）。

以上の結果を踏まえると、1992年から1993年にかけて実施された既往の調査（狭山池調査事務所1998年）からも知られるように、狭山池北側には中樋筋の西側に古墳時代及び中世の頃に、水田を伴う集落が営まれていたようであり、その範囲は当該地を含む地域にも広がっていた可能性が高い。

<参考文献>

- 狭山池調査事務所 1998年『狭山池 埋蔵文化財編』
- 和泉市教育委員会 助大阪府文化財センター 2008年『史跡池上曾根遺跡発掘調査報告書2001~2007』
- 鈴木道之介 1981年『図録 石器の基礎知識Ⅲ 縄文』
- 勝部明生 1988年『狭山の石器』『大阪狭山市史要』



第14図 新規指定遺跡位置図（東野中遺跡・庄司庵遺跡・池尻遺跡）

平成 22 年調査一覧表（平成 22 年 1 月～ 12 月まで）

番号	遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積 (m ²)	調査方法	概要
1	狹山藩陣屋跡	狹山4-2435-6	2010.1.5～23	共同住宅	250.02	発掘	地表面より約10～20cmの上面と、そこから約10～20cmの下面（地表面）で陣屋関連の遺構・遺物を検出した。
2	金蔵寺跡・陶邑窯跡群	今熊4-710-74、710-75、710-76	2010.1.29～226	宅地造成	329.53	発掘	いずれも盛土であり地表面・遺構・遺物等も認められず。
3	茱萸木北遺跡	東糸原木2-962-5、-6 その他	2010.2.24	学校建設	1901.344	発掘	地表下約60cmで地表面を検出したが、遺構の検出はなし。
4	池尻遺跡・ 狹山藩陣屋跡	狹山3-2599、2600-1	2010.2.25～317	宅地造成	757.54	発掘	地山直上の自然堆積層から頃壺器等が出土したが、これらは隣接地で検出された窓の遺物と思われる。その他の遺構はなし。
5	東野中遺跡	東野中4-592-1	2010.3.8～315	高齢者グループホーム	1064.3	試掘・ 発掘	地表下約35cmで土師器・頃壺器・瓦器片を含む包含層、また地山面上で遺構を検出。東野中遺跡として新規発見遺跡として指定。
6	陶邑窯跡群	池之原4-732-1、732-3	2010.4.20	個人住宅	280.16	発掘	地表下約70cmまでガラ混じりの整地層、約170cmまでは池と思われる堆積層が続く。その直下は粘土土層が堆積。北池・芦池に通る開削谷に位置し、近世頃に漁業用の小規模ため池があつた模様。
7	半田城跡	半田5-78-1	2010.5.7	宅地造成	453.44	発掘	地表下1.9mまでは整地層および再堆積層、その直下で地表面を確認。遺構・遺物なし。
8	池尻城跡	池尻中3-598-13	2010.5.13	個人住宅	96.34	発掘	盛土45cm、直下に旧耕作土。60cm以下も旧耕作土。遺構・遺物なし。
9	茱萸木北遺跡	茱萸木6-970-1、970-2、1933-1、1933-3の一部	2010.5.28	共同住宅	490.95	発掘	共同住宅建設に伴う調査。60cmの掘削層はすべて盛土。遺構・遺物なし。
10	池尻新池北窯	狹山5-2266乙-2の一部	2010.5.31	分譲住宅	465.15	発掘	地表下90cmまで盛土。その下は青灰色粘質シルトの水性堆積層。明治以降の池沼の堆積層の模様。遺構・遺物なし。
11	半田遺跡	半田3-1702-1の一部	2010.6.3	共同住宅	497.57	発掘	現況は細部で、耕作土10cm。その下は黄橙粘土の地山。遺構・遺物なし。
12	新池遺跡・ 陶邑窯跡群	茱萸木4-288-1の一部、289	2010.6.7	共同住宅	782.14	発掘	50cmを掘削。現耕作土・床土の下は地山。遺構・遺物なし。
13	半田北遺跡	狹山1-827-5、半田6-845-1、845-3、844-1の一部、844-2の一部、846-1の一部	2010.6.10	宅地造成	1744.57	発掘	現耕土が15～30cm、その下に旧耕土が堆積し、地表下40cmの地表面を切り込む。
14	陶邑窯跡群	茱萸木3-206-6	2010.7.2	共同住宅	447.25	発掘	地表下約70cmまでは前身住宅の整地による擾乱層。その下は旧耕作土。遺物・遺構なし。
15	池尻城跡	池尻中1-509	2010.7.6	個人住宅	294.65	発掘	地表下35cmまでは擾乱層。その下に15cm以上の整地土層・整地土上面から切り込む溝状遺構を検出。近世以前の可能性が高いこの溝状遺構はさらに東西に延びるが、遺構面は保護されるため調査には至らず。
16	池尻城跡	池尻中3-598-17	2010.7.14	分譲住宅	89.09	発掘	地表下40cmまでは盛土。その下は整地層で遺構・遺物なし。

番号	遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積(m ²)	調査方法	概要
17	太満池北窓	東池尻4-1402-1	2010.7.16	工場建替	95883.85	発掘	地表下1.28mで前回の発掘後埋め戻された窓の崩倒壁と遺構を保護した土のうを確認。窓体は東側に残存することが判明。
18	大島池遺跡 中高野街道	東池尻4-1449の一部、1452-1、1452-5の一部、1454-1、1455-1の一部、1455-2、1455-3	2010.8.24	宅地造成	2995.19	発掘	30cm~60cmまで搅乱層が入り込み、下層には耕作土が部分的に残る。その直下は明褐色粘土の地山になる。遺構・遺物なし。
19	陶邑窯跡群	今熊3-2173の一部	2010.9.9	個人住宅	204.77	発掘	深さ45cmで黄白色砂礫土の地山を確認。遺構・遺物なし。
20	新池遺跡	茱萸木4-435-1	2010.9.13	個人住宅	139.04	発掘	約20cmの盛土の下は黄白色粘土の均質な地山。遺構・遺物なし。
21	陶邑窯跡群	池之原3-707-2	2010.10.12~10.13	個人住宅	274.21	発掘	地表下30cmで地山を確認。南側でトレンチ外へ続く土坑が確認されたが、明治の磁器のほか現代遺物も含まれる。
22	陶邑窯跡群	山本東7-1、799、13-2	2010.11.1	介護施設	461.99	発掘	本報告書に収録(MT42-021X)
1	狛山藩陣屋跡	狛山4-2435-1	2010.1.9	ガス管理設	0.5	立会	遺構・遺物は認められず。
2	狛山藩陣屋跡	狛山4-2435-6	2010.1.19	水道管理設	32.9	立会	地表下約50cmで地山を確認。断面で落ち込みが観察された。
3	狛山神社遺跡	半田5-119-15	2010.1.29	ガス管理設	1.88	立会	約80cmまで断面観察を行ったが、地山等は確認できず。
4	狛山神社遺跡	半田1丁目・5丁目地内	2010.2.2	水道管理設	27.2	立会	堆積はすべて既設道路工事に伴う盛土で、遺構・遺物なし。
5	陶邑窯跡群	池之原3-539-8	2010.2.10	分譲住宅	132.18	立会	掘削は盛土内、遺構・遺物なし。
6	陶邑窯跡群	今熊1丁目地内	2010.3.12~3.15	道路舗装	152.9	立会	堆積はすべて盛土で、包含層・遺構・遺物なし。
7	狛山藩陣屋跡	狛山3-1402-3	2010.4.26	個人住宅	89.31	立会	地表下60cmまでは解体時のガラが残る。その下60cmは黄茶色粘土質の盛土。遺構・遺物なし。
8	金蔵寺跡 陶邑窯跡群	今熊4-708-10、709-8、710-66	2010.4.30	分譲住宅	101.00	立会	掘削深度25cmは全て盛土。遺構・遺物なし。
9	中高野街道	半田2-468-7~436-2	2010.5.17~5.31	ガス管理設	156.45	立会	搅乱を受けているが、道路面から40cm~70cmで黄褐色砂礫混粘土の地山を確認できる箇所がある。耕作土は見られず。
10	半田城跡	半田5-79-1~78	2010.6.2	ガス管理設	50.50	立会	北側は約1mまで搅乱、その下に黄褐色砂礫土。南側は地表下約50cmで暗灰黄色砂質土。整地等による再堆積層の模様。遺構・遺物なし。
11	陶邑窯跡群	茱萸木3-251-7	2010.6.3	ガス管理設	1.28	立会	道路面より60cmまで搅乱層、その下は整地層、褐色粘土質が堆積する。遺構・遺物なし。
12	金蔵寺跡 陶邑窯跡群	今熊4-708-3、708-5、709-9	2010.6.8	個人住宅	100.10	立会	掘削は盛土内におさまる。遺構・遺物なし。
13	金蔵寺跡 陶邑窯跡群	今熊4-708-11、709-2	2010.6.8	個人住宅	176.73	立会	掘削は盛土内におさまる。遺構・遺物なし。
14	西高野街道	茱萸木5-575-2の一部	2010.6.14	個人住宅	229.94	立会	掘削は現在の整地土内におさまる。遺構・遺物なし。

番号	遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積(m ²)	調査方法	概要
15	池尻城跡	池尻自由丘3-15-13～3-15-15	2010.6.21	ガス管理設	9.50	立会	道路面より約40cmで黄白粘土層砂礫の地山を確認。1.1mまで続く。地山層より上は整地土と思われる紗層、粘土層が見られた。遺構・遺物なし。
16	陶邑窯跡群	池之原2-1164-1の一部	2010.7.12	個人住宅	187.73	立会	盛土が10cm、旧耕作土、床土が35cm堆積し、淡黄色粘土層が続く。これは地山ではなく谷地等を埋めた再堆積土の様子。遺物・遺構なし。
17	中高野街道	東野中3-721-8の一部	2010.7.13	分譲住宅	117.54	立会	40cmの掘削土は盛土内であった。遺構・遺物なし。
18	陶邑窯跡群	池之原1-884-1	2010.7.13	看板設置	5.00	立会	地表下約60cmまでは搅乱層、その直下に黄色粘土の地山があった。遺構・遺物なし。
19	茱萸木北遺跡	茱萸木6-967-2～東茱萸木2-962-5	2010.7.29～7.30	ガス管理設	63.00	立会	道路面より20cmで旧耕作土、旧耕作土層下の褐色系粘土層は東へ行くほど厚くなる様子。40cmで明黄色土の地山確認。
20	陶邑窯跡群	山本東18-21	2010.8.2	個人住宅	157.26	立会	本報告書に収録(MT42-01X)
21	中高野街道	半田2-392-1	2010.8.18	分譲住宅	101.51	立会	地表下15cmまで盛土、その下15cmの黄褐色砂礫混粘土質は整地土とみられる。
22	池尻城跡	池尻自由丘3-134-7、-12、-14の一部、-22、-23の一部	2010.8.23	個人住宅	262.13	立会	地表下30cmまでは搅乱層、その下に堆山土を含む黄白色粘土質が堆積。遺構・遺物なし。
23	池尻城跡	池尻自由丘3丁目、池尻中3丁目地内	2010.8.23～8.31	水道管理設	21.50	立会	ほとんどが搅乱層、遺構・遺物は認められず。
24	半田遺跡	茱萸木2-476-21	2010.9.1	個人住宅	60.93	立会	掘削は盛土内におさまる。遺構・遺物なし。
25	西高野街道	茱萸木6-1038-1	2010.9.2	ガス管理設	240	立会	地表下約50cmで黄白色粘土質の地山を確認。遺構・遺物なし。
26	中高野街道	半田2-362～2-388	2010.8.26～9.6	ガス管理設	211.50	立会	地表下50～60cmで黄褐色粘土の地山が残る部分があるが、ほぼ搅乱層であり、遺構・遺物はなし。
27	陶邑窯跡群	池之原1丁目地内	2010.9.14	水道管理設	105.20	立会	地表下約40～50cmで黄褐色粘土質の整地土。遺構・遺物なし。
28	狹山神社遺跡	半田5-234-3	2010.9.16	個人住宅	79.70	立会	地表下約80cmまで搅乱層。遺構・遺物なし。
29	狹山藩陣屋跡	狹山3-2573	2010.9.21	ガス管理設	3.38	立会	道路敷設等で振り返しの搅乱層のみ。遺構・遺物なし。
30	池尻城跡	池尻中1-517の一部、520-6	2010.9.22	個人住宅	712.09	立会	10cm～20cmの盛土直下は地山。地山は黄白色砂礫混粘土。遺構・遺物なし。
31	池尻城跡	池尻中3-598-15、-27、614-12	2010.10.1	個人住宅	94.15	立会	掘削は盛土内であった。遺構・遺物なし。
32	陶邑窯跡群	岩室3-421-1～276	2010.10.5～10.13	ガス管理設	12.48	立会	MT57、MT10にあたる。MT57は掘削深15mで粘土の地山を確認。遺構・遺物なし。MT10は掘削深2mでも盛土であった。遺構・遺物なし。
33	狹山藩陣屋跡	狹山3-2579-4	2010.10.8	電話基地局設置	24.00	立会	直径40cmの円形坑を2.5m掘削。掘削深2mまで黒灰色の現代堆積土、純2.5mでも褐色土の現代搅乱土であり、2.8mで掘削底に至るが包含層・遺構・遺物なし。

番号	遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積 (m ²)	調査方法	概要
34	陶邑窯跡群	池之原3-593~510	2010.10.21	ガス管理設	600	立会	約1mまでは黄褐色粘土混砂層、その下は青灰色粘土が堆積する。遺構・遺物なし。
35	茱萸木北道路	東茱萸木1-779-1、779-5	2010.10.26	店舗建設	644.62	立会	西側にはガソリンスタンドの地下槽があったため東側を掘削。地表下70cmにもコンクリートが入る。1995年の調査では地表下120cmで池堆積土、200cmで地山との記録が残る。
36	中高野街道	半田2-372~伏山1-1~25	2010.10.27	ガス管理設	21.50	立会	既設管の搅乱層のみ。遺構・遺物なし。
37	池尻遺跡	池尻中2-907-2	2010.11.17 12.1~12.2	宅地開発	731.54	試掘・立会	本報告書に収録(101117区)
38	猿山藩陣屋跡	東池尻3-2488-2	2010.11.19	ガス管理設	3.23	立会	猿山藩陣屋ボケットパークの東向かい。道路面下約30cmで多数の瓦を含む包含層(褐色粘土質、層厚約20cm)が断面観察された。包含層直下が遺構検出面となる様子。
39	新池遺跡 西高野街道 陶邑窯跡群	今郷2-2-1	2010.12.3	掩埋設置	506.00	立会	丘陵北東斜面裾付近。地山斜面に實体等の遺構は確認できず、須恵器等の遺物もなし。
40	茱萸木遺跡	大野東377-2他34筆	2010.12.15	防音壁設置	38.30	立会	斜面を階段状に切り土する。掘削土は飼糞土あるいは盛土のみ。遺構・遺物なし。
1	遺跡外	東池尻5-1294-15	2010.3.26	宅地造成	1489.33	試掘	地表下40cmで地山、包含層・遺構・遺物は認められず。
2	遺跡外	東池尻4-1336-1、1337-1、2、4、1339-12、1345	2010.3.29~3.30	老人ホーム	3351.75	試掘	本報告書に収録(090329区)
3	遺跡外	池尻中2-910-1、-3、-2の一部、895-2の一部、894-1	2010.4.22	共同住宅	1178.99	試掘	地表下40cm~70cmは整地層、その下1.2mまでは灰黄色系粘土の堆積層が続く。遺構・遺物なし。
4	遺跡外	茱萸木8-1200、1235-1、1237、1239、1241、1244、1245、1246、1247、1248、1249、1250、1251、1608、1644地先道路、水路	2010.6.28、8.3	宅地造成	5279.17	試掘	10~30cmの整地土直下は地山となる。深さ1.3m以上の谷地形を確認。浅谷の入り組んだ田地形であろう。遺構・遺物なし。
5	遺跡外	茱萸木3-2283-1、-4、-5	2010.9.21	保育園増築	1896.64	試掘	地表下30cmで明黄褐色粘土質の耕作土が約40cm堆積し、それより下位は河川の流れ堆積層が続く。遺構・遺物なし。
6	遺跡外	半田2-389-2、399、400、402-3の一部	2010.11.4	宅地造成	1225.71	試掘	現地表下約30cmで砂礫混じりの黄白色粘土の地山となる。遺構・遺物なし。
7	遺跡外	茱萸木2-2103-4、2103-6、2104-3、2105-1、2108-2	2010.11.10、12.14	店舗建設	1205.23	試掘	約1.4mまで明黄褐色砂質の整地土が堆積する。河川により削られた地形を整地するための盛土が分厚くなされている。遺構・遺物は認められなかつた。

写 真 図 版



MT 42-01 区調査地（東から）



MT 42-01 区掘削土層断面
(中央南寄り)



MT 42-01 区
(中央付近)

図版2 陶邑窯跡群 MT 42-02区発掘調査



MT 42-02 区調査地（南から）



MT 42-02 区東西トレンチ
(東から)



MT 42-02 区南北トレンチ
(北から)



第 2 トレンチ土層断面



第 4 トレンチ土層断面



調査地を南から見た近景

図版4 試掘調査101111-7区（池尻遺跡）



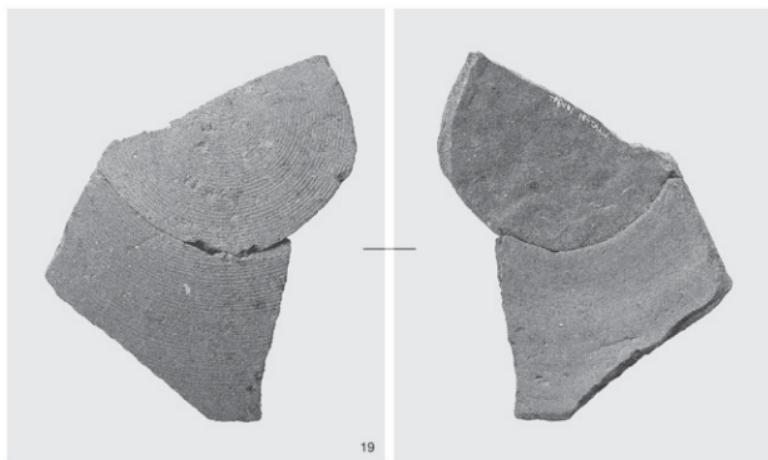
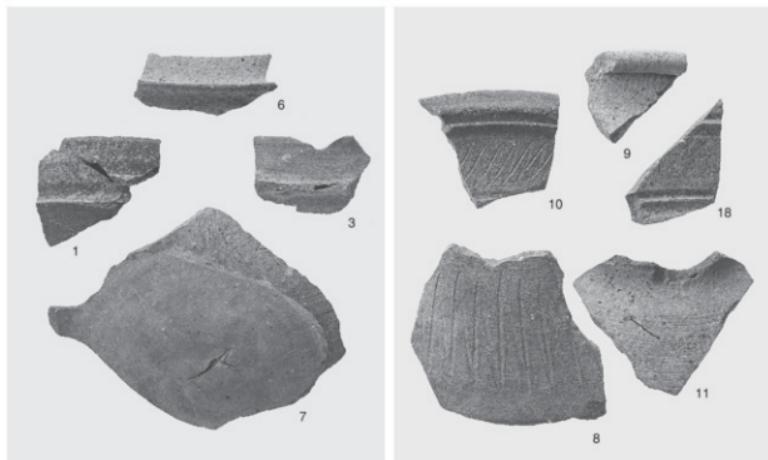
試掘トレンチ南西角付近



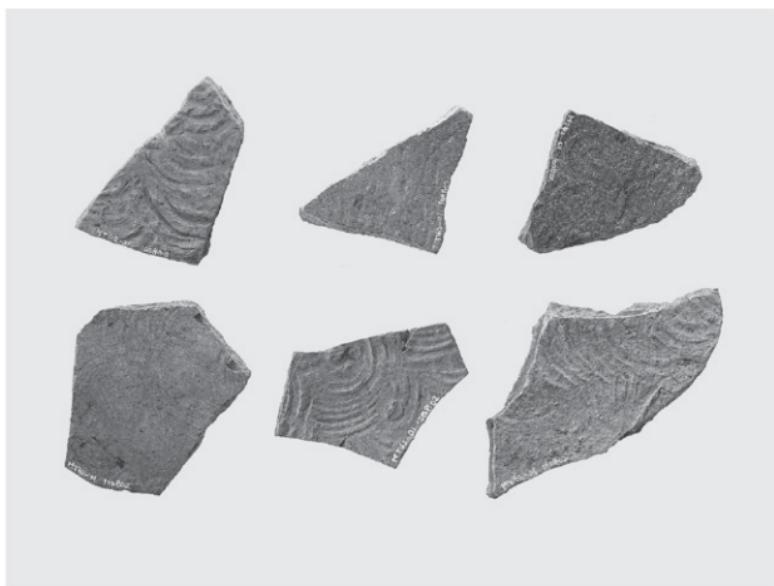
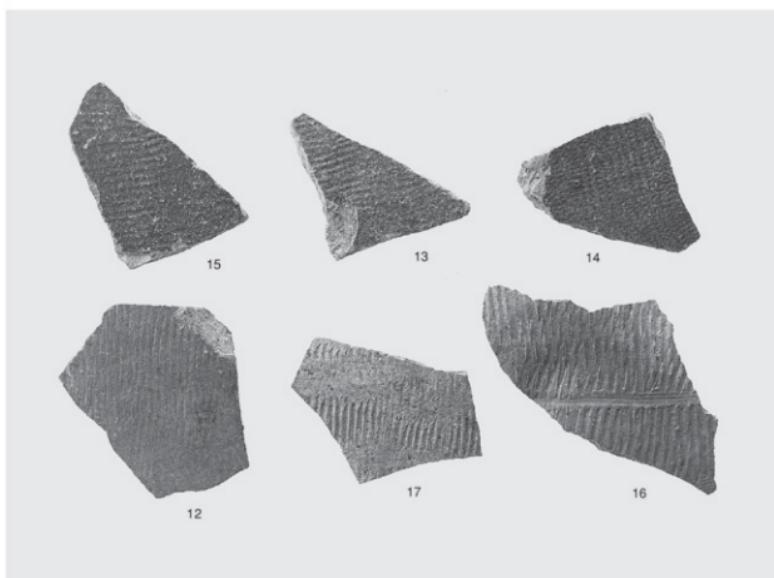
試掘トレンチ（南西角から北方
を見たところ）

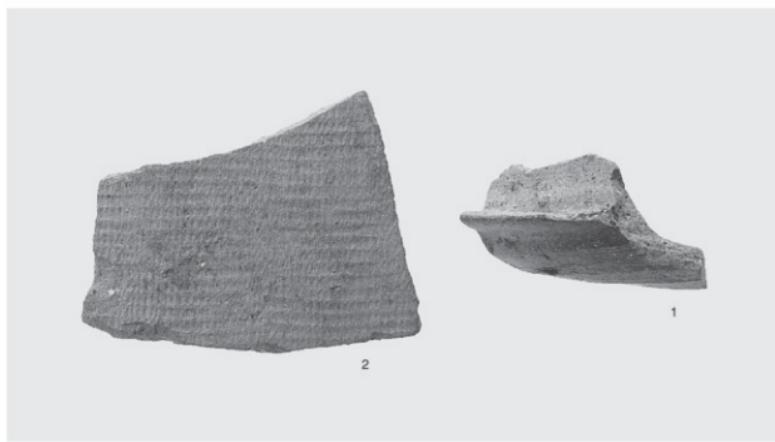
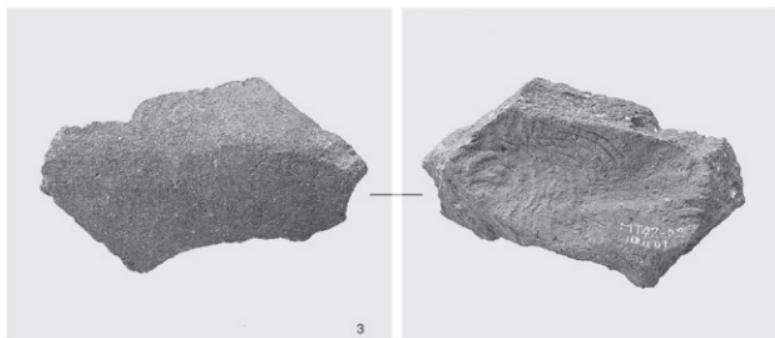


調査地から南方への遠景

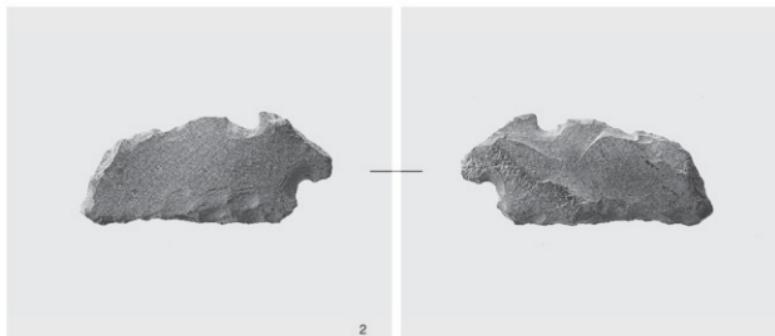


図版6 陶器蒸跡群 M-T42-01区 出土遺物②





MT42-02 区出土遺物



101117 区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはつくつちょうさがいようほうこくしょ 21							
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 21							
副書名								
卷次								
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書							
シリーズ番号	38							
編著者名	平野 淳 土江 文子 芝地 夏美							
編集機関	大阪狭山市教育委員会							
所在地	〒589-8501 大阪府大阪狭山市狹山1丁目2384-1 Tel.072-366-0001							
発行年月日	2011年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	調査区	北緯 °' "	東經 °' "	面積 (m ²)	調査原因	
すえら かまちごん 陶邑窯跡群	おおさかさやまし 大阪狭山市	27231	—	MT42・01	34度30分 32秒	135度32分 32秒	157.26	個人住宅
	おおさかさやまし 大阪狭山市	27231	—	MT42・02	34度30分 33秒	135度32分 33秒	461.99	介護施設
じょうじ あん いせき 庄司庵遺跡	おおさかさやまし 大阪狭山市	27231	—	090329区	34度30分 49秒	135度33分 18秒	3351.75	高齢者 グループ ホーム
	おおさかさやまし 大阪狭山市	27231	—	101117区	34度30分 34秒	135度33分 17秒	731.54	宅地造成
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器を伴う二次堆積層		須恵器			
庄司庵遺跡	散布地	古墳 中世	中世包含層		土師器・須恵器			
池尻遺跡	集落跡	古墳 ～ 中世	溝状遺構		須恵器・石器			

大阪狭山市文化財報告書 38

大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 21

発行日 平成23年(2011年)3月31日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狹山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社